

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：7-9月期英国GDP（一次改定値）

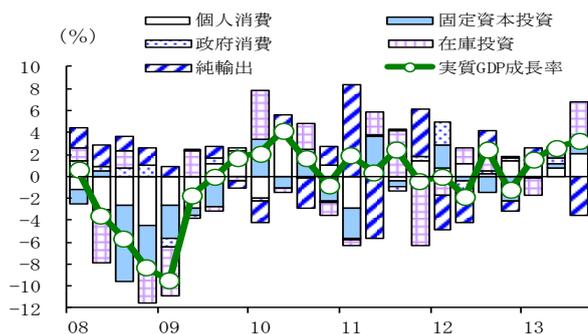
発表日：2013年11月28日（木）

～内憂外患から内憂外患へ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

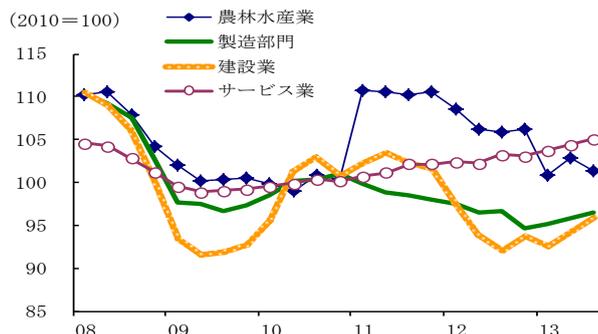
- 27日に発表された7-9月期の英国の実質GDP成長率の一次改定値は、速報時点から不変の前期比+0.8%（同年率+3.2%）となり、3四半期連続のプラス成長を記録した。このところ堅調な景気回復が続くが、金融危機以前のピーク（2008年1-3月期）にはまだ2.5%及ばない。
- 需要項目別には、内需が好調で、外需が不振。個人消費（前期：同+0.5%→今期：同+0.8%）、固定資本投資（同+0.8%→同+1.4%）の伸びが加速し、在庫投資の寄与が拡大（同+0.2%ポイント→同+0.9%ポイント）。景気回復を反映し、企業が在庫積み増しに動いている。一方、純輸出の寄与が3四半期振りにマイナスに転落。輸入の増勢が続く（同+2.9%→同+0.4%）なか、米国やアジア向けの不振が響き、輸出が3四半期振りに落ち込んだ（同+3.0%→同▲2.4%）。なお、名目GDPが前期比+1.7%（同年率+6.9%）と大幅に伸び、税収増加で財政収支の改善も期待できる。
- 各種のサーベイ調査からは、10-12月期入り後も堅調な景気拡大が持続していることが示唆される。10月のPMI指数は、製造業の改善モメンタムが僅かに鈍化した（56.3→56.0）、建設業（58.9→59.4）、サービス業（60.3→62.5）が一段と加速し、3業種の合成指数（筆者作成）は1997年以來の60台に上昇。11月のCBIサーベイでは、生産見通しが改善（+9→+24）、受注判断（▲4→+11）、輸出受注判断（▲12→+1）がプラス圏に復帰した。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英国連邦統計局

■英国：業種別GDP



出所：英国連邦統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
12/1-3月期	2.5	0.0	(3.1)	1.1	10.1	15.3	(▲1.8)	(▲3.1)	▲7.0	2.6
12/4-6月期	▲2.2	▲1.8	(0.6)	1.8	▲5.5	▲3.2	(1.5)	(▲2.4)	▲1.8	5.9
12/7-9月期	5.3	2.5	(1.0)	0.4	1.0	▲9.3	(2.2)	(1.5)	8.4	3.2
12/10-12月期	2.4	▲1.2	(▲0.3)	2.3	1.1	▲14.5	(0.1)	(▲0.9)	▲6.8	▲3.7
13/1-3月期	4.6	1.5	(0.4)	2.2	▲0.8	0.6	(▲1.5)	(1.1)	0.3	▲3.2
13/4-6月期	1.6	2.7	(2.6)	1.2	2.1	3.1	(1.0)	(0.0)	12.6	12.0
13/7-9月期	6.9	3.2	(6.7)	3.2	1.9	5.8	(3.5)	(▲3.5)	▲9.1	1.7

出所：英国連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。